

オンパットロ点滴静注の調製方法と注意点

監修:熊本大学病院 薬剤部
信州大学医学部附属病院 薬剤部

《オンパットロに関する調製時の注意点》

- 患者さんの体重より必要な薬液量を計算し、ろ過される量を考慮して必要なバイアル数を用意してください(右表参照)。
- 本剤1バイアル(5mL)をろ過した場合、ろ過後の採取可能容量は4.4mLです。
- 体重1kgあたり0.3mg(薬液量:0.15mL)を投与します。
- 患者さんの体重が104kg以上の場合は、31.2mg(薬液量:15.6mL)を投与します。



- 振とうしないように注意してください。
- バイアル内の薬液の状態を目視で確認してください。本剤は白色から帯黄白色の乳白光を呈する均質な液です。変色がある場合は使用しないでください。
- バイアルの内側表面に白色から帯黄白色の被膜が観察されることがありますが、製剤の品質には影響ありません。
- 調製前は凍結を避け、2~8℃で保存してください。

《調製・投与前に準備するもの:チェックリスト》

① オンパットロ点滴静注2mg/mL	<input type="checkbox"/> 2バイアル	<input type="checkbox"/> 3バイアル
② シリンジフィルター:ろ過用 提供	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
③ 密栓滅菌容器 提供	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1
④ 注射針	<input type="checkbox"/> 7	<input type="checkbox"/> 9
⑤ エアー針	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1
⑥ ロック式滅菌シリンジ(20 又は 30mL):フィルターろ過用	<input type="checkbox"/> 2	<input type="checkbox"/> 3
⑦ 滅菌シリンジ(50mL、10mL):生理食塩液調整用	<input type="checkbox"/> 1(50mL)	<input type="checkbox"/> 1(50mL)
	<input type="checkbox"/> 1(10mL)	<input type="checkbox"/> 2(10mL)
⑧ 滅菌シリンジ(10mL):ろ過済み薬剤の採取用	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 2
⑨ 0.9%塩化ナトリウム溶液(生理食塩液)点滴バッグ(200 又は 250mL)	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1
⑩ DEHPフリー又はPVCフリーの輸液セット	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1
⑪ インラインフィルター[ニプロフィルターセット(PVCフリー)/FG-120AT-B]	<input type="checkbox"/> 1	<input type="checkbox"/> 1

- 薬剤と接触する器具はすべてフタル酸ジ-2-エチルヘキシル(DEHP)フリーのものを使用してください。
- その他、前投薬及びルートキープ用の生理食塩液などが必要となります。
- 本剤を投与する際は、インラインフィルター[ニプロフィルターセット(PVCフリー)/FG-120AT-B]を含む輸液セットを使用してください。

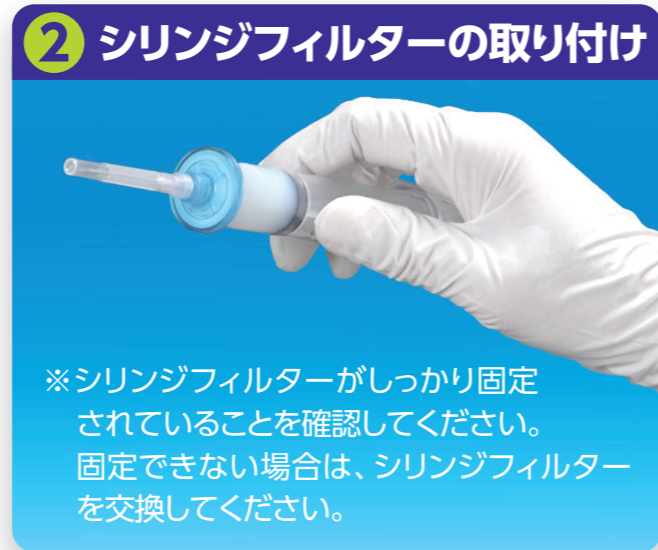
《オンパットロ投与量換算表》

体重(kg)	投与量(mg)	必要薬液量(mL)	必要バイアル数	体重(kg)	投与量(mg)	必要薬液量(mL)	必要バイアル数	体重(kg)	投与量(mg)	必要薬液量(mL)	必要バイアル数
30	9.0	4.50	2 バイアル	59	17.7	8.85	3 バイアル	89	26.7	13.35	4 バイアル
31	9.3	4.65		60	18.0	9.00					
32	9.6	4.80		61	18.3	9.15					
33	9.9	4.95		62	18.6	9.30					
34	10.2	5.10		63	18.9	9.45					
35	10.5	5.25		64	19.2	9.60					
36	10.8	5.40		65	19.5	9.75					
37	11.1	5.55		66	19.8	9.90					
38	11.4	5.70		67	20.1	10.05					
39	11.7	5.85		68	20.4	10.20					
40	12.0	6.00		69	20.7	10.35					
41	12.3	6.15		70	21.0	10.50					
42	12.6	6.30		71	21.3	10.65					
43	12.9	6.45		72	21.6	10.80					
44	13.2	6.60		73	21.9	10.95					
45	13.5	6.75		74	22.2	11.10					
46	13.8	6.90		75	22.5	11.25					
47	14.1	7.05		76	22.8	11.40					
48	14.4	7.20		77	23.1	11.55					
49	14.7	7.35	78	23.4	11.70						
50	15.0	7.50	79	23.7	11.85						
51	15.3	7.65	80	24.0	12.00						
52	15.6	7.80	81	24.3	12.15						
53	15.9	7.95	82	24.6	12.30						
54	16.2	8.10	83	24.9	12.45						
55	16.5	8.25	84	25.2	12.60						
56	16.8	8.40	85	25.5	12.75						
57	17.1	8.55	86	25.8	12.90						
58	17.4	8.70	87	26.1	13.05						
			88	26.4	13.20						
				104~	31.2	15.60					

《調製方法》 無菌操作により調製してください。(ドラフトチャンバーなどでの調製は必須ではありません)



バイアル1本の全量をロック式滅菌シリンジに抜き取ります。
※ 抜き取った後、注射針にキャップをして、シリンジ内の空気を抜きます。



※シリンジフィルターがしっかり固定されていることを確認してください。固定できない場合は、シリンジフィルターを交換してください。
薬剤を採取したロック式滅菌シリンジから注射針を外してシリンジフィルターを取り付け、新しい注射針に取り替えます。

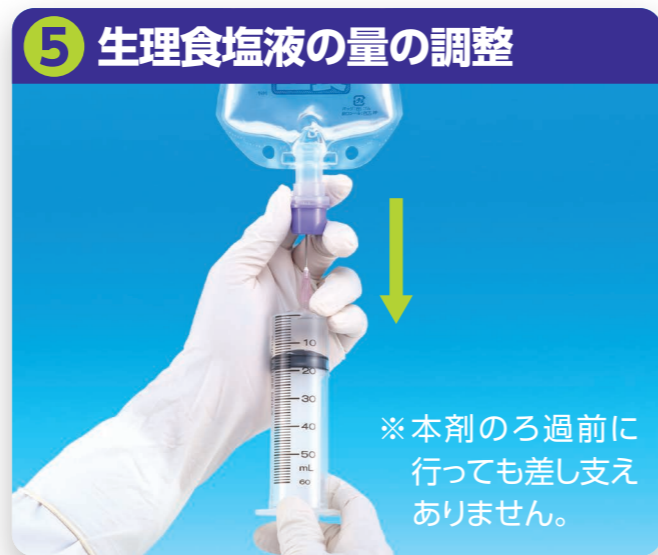


容器内に通気するため、密栓滅菌容器のゴム栓にエアークラス針を刺し込みます。



エアークラス針を刺した密栓滅菌容器のゴム栓に②の針を刺し込み、シリンジ内の本剤をゆっくりろ過します。

①②④の手順を繰り返して、必要本数のバイアル内の全量を③で用意した密栓滅菌容器にろ過します。
※ シリンジフィルターはバイアルごとに交換してください。



※本剤のろ過前に行っても差し支えありません。
本剤の必要薬液量と合わせて総液量が200mLとなるように滅菌シリンジを使用して点滴バッグから生理食塩液を抜き取ります。



滅菌シリンジを使用して密栓滅菌容器から、ろ過済みの本剤を必要な量抜き取ります。



⑤の生理食塩液の点滴バッグに⑥のろ過済みの本剤を注入し、点滴バッグを静かに転倒混和します。
※ 振とうしないように注意してください。



- 他の静注用薬剤等との配合または同じ静注ラインでの同時注入は避けてください。
- 滅菌容器内の残液(ろ過済みの本剤)はすべて廃棄してください。
- 本剤の希釈溶液は、調製後速やかに使用してください。希釈後にやむを得ず保存する場合には、15～30℃で保存し、投与時間を含めて16時間以内に使用してください。

《投与時の注意》

インラインフィルター(孔径1.2μm、PES)を含むDEHPフリーの輸液セットを使用してください。